

「風って、ものを動かすことができるの？」

社会福祉法人慈育会 若葉台保育園（福島県いわき市）〔3～5歳児〕

“こいのぼり”の動きから風が存在に改めて気づき、「見えない風」に対する興味が深まっていった子どもたち。風車やシャボン玉などの経験により、風の向きや風の力に気づき、風の力を活かす遊びが広がっていった。

「風って、どのくらい物を動かすことができるの？」5歳児のそんな疑問から、風の力を受けて動く車を作ることになった。

A児は風車の時のように「フー！」と、息を吹きかける。その様子を見て周りの子どもたちも息を吹きかけ、走らせ始める。

「競争だ！」というB児の言葉から、身近にある風が起きる物を、子どもと一緒に探す。夏祭りのうちわがすぐに目に入り、パタパタさせて遊んでいた。もっと何かおもしろいものはないか…と、ドライヤー・手持ち扇風機を持ち寄る。

C児：「私は、扇風機使う！風車の時もいっぱい回ったから…」

B児：「僕、ドライヤーにする！！」

D児：「うちわしか残ってないやー」

保育者：「それじゃあ、始めるよ！よーいドン！」

5歳児が作ったビニールの帆を付けた車



ドライヤー・手持ち扇風機はあつという間にゴールを過ぎていく。何度も繰り返す中で、子どもたちがどれを使えば、車が速く走るのかに気付くまで時間はかからず、うちわを選択する子は少なくなっていった。

C児：「ドライヤーも遅い！」

B児：「扇風機、速いよね！」

ドライヤーが負けるはずがないと、風を顔に当てて風の出方を確かめるC児。



「うーん…」 走らせることを楽しみながらも、やり方、道具の動かし方などを変えていく子どもたち。

そして、「音が違う！」と言うA児の言葉に他の子どもたちは、「どうしたの？」という表情を浮かべる。

A児：「ほら、よく聞いて！風がビニールに当たると音がする」

C児：「本当だ！バリバリって言っている」B児：「風が当たってるってわかる！」

E児：「バリバリって言えば速く走るんだよ！」

風が当たった時と当たっていない時の音の違いに気付く。“バリバリ”という音が出ることを目標に風を当てると、ドライヤーの方が速く進むようになった。

B児：「風が当たってなかったんだ！」

保育者：「ドライヤー重かったから、下向いちゃったんだね」

B児：「これでドライヤーが負けることはない！」



5歳児の風を使って走る車を発見した3歳児のA児。ちょっと借りて遊んでいた。他の子どもたちも興味津々…。みんなで5歳児クラスに行き、やらせてもらうことに。初めはうまく進まず、ただうちわをパタパタとするだけの3歳児。中には、うちわであおぎながらも、なんとか進めたくて足で押す子も…。

5歳児に教えてもらい、3歳児は自分たちでもいろいろなやり方に挑戦した。その後4歳児に伝わり4歳児も車作りが始まった。

なんかうまくできない…。(3歳児)



「ここ(帆)をね、こうやって…」と、5歳児の講習会が始まった。5歳児のやり方をじっと見ながら模倣をし、また教えてもらう。



※ドライヤー・扇風機など安全面に配慮をして使用しています。

(みどころ) 子どもたちが、風の力・風の向き・風の音など様々なことに興味を深め、風を起こす物と風で動く物との関係に気づき、試したり、探求を深めたりする姿に「科学する心」の育ちが感じられます。また、5歳児の姿に興味をもった異年齢児との自然な交流が、互いの興味や探求を深めることに繋がっています。